

アンリツ サステナビリティレポート 2022

Anritsu Sustainability Report

Anritsu
Advancing beyond



共に持続可能な未来づくりを

2021年4月、アンリツは2030年に向けて、新たな経営ビジョン、経営方針を掲げました。
これに合わせ、サステナビリティ方針も改定しました。これらの理念、ビジョン、方針を基に社員一人ひとりが行動し、
ステークホルダーの皆さまと共に、持続可能な未来づくりに挑んでいきます。



サステナビリティ方針

私たちは「誠と和と意欲」をもってグローバル社会の持続可能な未来づくりに
貢献することを通じて、企業価値の向上を目指します。

- ① 長期ビジョンのもと事業活動を通じて、安全・安心で豊かなグローバル社会の発展に貢献します。
- ② 気候変動などの環境問題へ積極的に取り組み、人と地球にやさしい未来づくりに貢献します。
- ③ すべての人の人権を尊重し、多様な人財とともに個々人が成長し、健康で働きがいのある職場づくりに努めます。
- ④ 高い倫理観と強い責任感をもって公正で誠実な活動を行い、経営の透明性を維持して社会の信頼と期待に応える企業となります。
- ⑤ ステークホルダーとのコミュニケーションを重視し、協力関係を育み、社会課題の解決に果敢に挑んでいきます。

改定 2021年4月

アンリツグループ企業行動憲章

WEB アンリツグループ企業行動憲章

アンリツグループ行動規範

WEB アンリツグループ行動規範

WEB ESG関連の方針・ガイドライン一覧

CONTENTS

01 企業理念体系	02 歴史と発展	04 CEOメッセージ	06 サステナビリティ経営の全体像	11 事業を通じて解決する社会課題	19 共創に向けて
21 Environment	48 Social	81 Governance	102 本レポートについて		

アンリツはこんな会社です。

生まれは明治時代です。

アンリツは1895年(明治28年)に創業しました。当時の社名は石杉社です。紆余曲折を経て、1931年に安中電機製作所と共立電機が合併し、安立電気株式会社が誕生しました。その後1985年に現在のアンリツ株式会社となりました。

創業以来、アンリツは情報通信機器のバイオニアとして、コミュニケーションの進化・発展に関わってきました。その後、通信用測定器や食品の品質保証機器へと事業の幅を広げ、現在は、通信計測・PQA・環境計測・センシング&デバイスの4つの事業を展開するとともに、ESGへの取り組みも積極的に行い、社会課題解決に貢献しています。

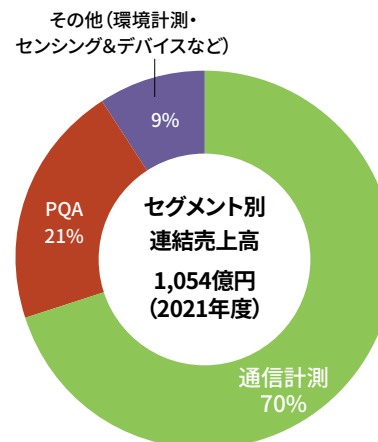
WEB 会社概要

通信計測事業

5G/IoT社会の実現を支える通信計測ソリューションの提供を通して、世界各国のお客さまとともに、便利で快適な社会の実現に貢献しています。

PQA事業

食品や医薬品の安全と安心の実現に向け、お客さまの製造現場の多種多様な悩みや問題を解決するソリューションを展開しています。



環境計測事業

社会インフラの維持、脱炭素社会の実現を支える環境計測ソリューションを提供し、持続可能な社会の実現に貢献しています。

センシング&デバイス事業

最先端のデバイス技術、センシング技術を基盤にお客さまの要望に応じた高品質なカスタム製品を世界中に供給しています。

●社会課題解決への貢献の歴史

通信の実用化

- 1908：後の公衆電話機となる自動電話機を量産
- 1914：世界に先駆けて無線電話機を実用化
- 1924：国産初のラジオ放送聴取用受信機製作
- 1933：国産初のテレビジョン放送機製作



通信インフラの整備、食品の大量生産

- 1950：TV放送向け各種測定器の開発・製造
- 1956：公衆電話機の開発・製造
- 1964：食品用重量選別機の開発・製造



光・デジタル通信の高速化、食品の安全・安心

- 1981：業界初の光パルス試験器の開発・製造
- 食品用金属検出機の開発・製造
- 2000：高速データ通信用測定器の開発・製造
- 食品用X線異物検出機の開発・製造



モバイル通信の進化・発展

- 2001：業界初の3G用測定器の開発・製造
- 2010：業界初の4G用測定器の開発・製造
- 2018：業界初の5G用測定器の開発・製造



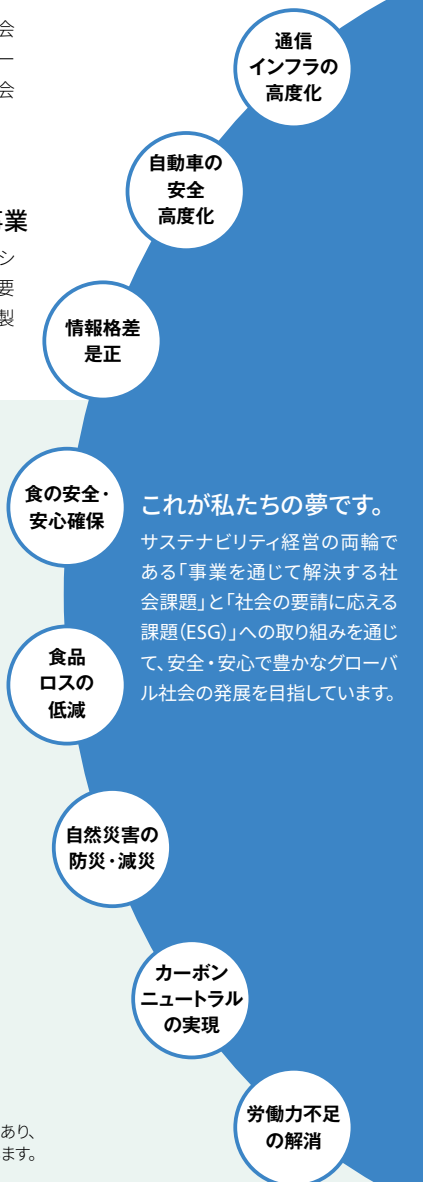
●ESGの取り組みの歴史

- 1962：排水処理施設設置
- 1968：東京証券取引所市場第1部に上場
- 1994：製品アセスメント委員会発足
- 1995：アンリツグループ行動規範制定
- 1997：環境方針制定
- 1998：ISO14001認証取得(厚木事業所)
- 1999：アンリツグリーン調達ガイドライン・製品開発用・制定
- 2000：リサイクルセンター設立
- 環境配慮型製品制度制定
- 環境報告書発行開始
- 執行役員制度導入

- 2001：IR部門設置
- 2004：CSR推進部門設置
- 2005：社外取締役1名招聘(10年、11年、21年増員)
- CSR報告書発行
- アンリツグループ企業行動憲章制定
- 2006：国連グローバル・コンパクト賛同
- 2010：アンリツグループCSR調達ガイドライン制定
- 2013：郡山第二工場建設・太陽光発電開始
- 2015：監査等委員会設置会社に移行
- グローバル本社棟建設・太陽光発電開始

- 2018：サステナビリティ方針制定(2021年改定)
- サステナビリティ推進部門設置
- CSR報告書からサステナビリティレポートへ
- 2019：CO₂排出量削減計画でSBT認証取得
- 2020：再エネ自家発電に取り組む
- 「Anritsu Climate Change Action PGRE 30[®]」開始
- Anritsu Company(米国)で太陽光発電開始
- 2021：株式会社ハビスマ設立(特例子会社認定取得)

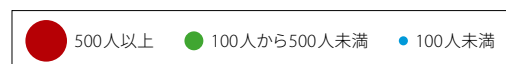
※「PGRE」は、Private Generation of Renewable Energy(再エネ自家発電)の略であり、「30」は自家発電比率目標値である30%程度とその達成時期の2030年頃を意味します。



アンリツはこんな会社です。 開発/製造/技術・サービス拠点をグローバルに展開

開発/製造/技術・サービス拠点をグローバルに展開

アンリツの開発/製造/技術・サービス拠点は世界に広がっています。
主な拠点は以下の通りです。



米州

Anritsu Company (U.S.A.)

- ・所在地：カリフォルニア州モーガンヒル
- ・通信計測 (開発/製造)

Anritsu Infvis Inc. (U.S.A.)

- ・所在地：イリノイ州シカゴ
- ・PQA (開発/製造/技術・サービス)

Azimuth Systems, Inc. (U.S.A.)

- ・所在地：マサチューセッツ州アクトン
- ・通信計測 (開発/製造)



Anritsu Company

EMEA

Anritsu Ltd. (U.K.)

- ・所在地：ベットフォードシャー ルートン
- ・通信計測 (開発)

Anritsu EMEA Ltd. (U.K.)

- ・所在地：ベットフォードシャー ルートン
- ・通信計測 (開発/技術・サービス)

Anritsu Solutions S.r.l. (Italy)

- ・所在地：ローマ
- ・通信計測 (開発/技術・サービス)



Anritsu Ltd./
Anritsu EMEA Ltd.

Anritsu Solutions SK, s.r.o. (Slovakia)

- ・所在地：ブラチスラバ
- ・通信計測 (開発)

Anritsu A/S (Denmark)

- ・所在地：コペンハーゲン
- ・通信計測 (開発/技術・サービス)

Anritsu Solutions S.R.L. (Romania)

- ・所在地：ブカレスト
- ・通信計測 (開発/技術・サービス)



Anritsu Electronics (Shanghai)
Co., Ltd.

アジア

Anritsu India Private Limited (India)

- ・所在地：バンガロール
- ・通信計測 (開発/技術・サービス)

Anritsu Philippines, Inc. (Philippines)

- ・所在地：ケソン
- ・通信計測 (開発)

Anritsu Infvis (Thailand) Co., LTD. (Thailand)

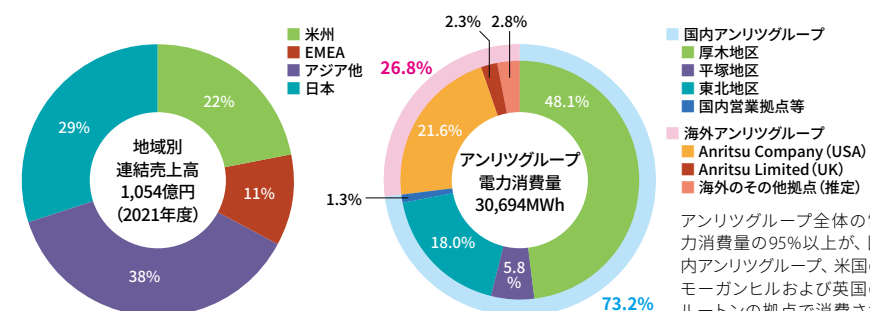
- ・所在地：チョンブリー
- ・PQA (開発/製造/技術・サービス)

Anritsu Industrial Systems (Shanghai) Co., Ltd. (China)

- ・所在地：上海
- ・PQA (製造/技術・サービス)

Anritsu Electronics (Shanghai) Co., Ltd.

- ・所在地：上海
- ・通信計測 (製造/技術・サービス)



アンリツグループ全体の電力消費量の95%以上が、国内アンリツグループ、米国のモーガンヒルおよび英国のルートンの拠点で消費されています。

日本

アンリツ株式会社

アンリツインフィビス株式会社

アンリツデバイス株式会社

アンリツカスタマーサポート株式会社

- ・所在地：神奈川県 厚木市
- ・通信計測/PQA/環境計測/センシング&デバイス (開発/製造/技術・サービス)

ATテクマック株式会社

- ・所在地：神奈川県 平塚市
- ・通信計測/PQA/環境計測/センシング&デバイス (製造)



東北アンリツ株式会社



アンリツ株式会社

東北アンリツ株式会社

- ・所在地：福島県 郡山市
- ・通信計測/環境計測 (製造)

株式会社高砂製作所

- ・所在地：神奈川県 川崎市 / 山形県 鶴岡市
- ・環境計測 (開発/製造/技術・サービス)

AK Radio Design株式会社

- ・所在地：神奈川県 厚木市
- ・通信測定サービス (技術・サービス)

CEOメッセージ

事業およびESGへの取り組みを両輪に、 “共に持続可能な未来へ”



代表取締役 社長
グループCEO

濱田 宏一

アンリツグループは、サステナビリティ経営を通じて、未来の社会づくりへの貢献を目指しています。「事業を通じて解決する社会課題」「社会の要請に応える課題(ESG)」への取り組みを両輪に、ステークホルダーの皆さまとともに、安全・安心で豊かなグローバル社会の発展に貢献いたします。

社会にとって必要な会社、役立つ会社を目指す

新型コロナウイルスのパンデミックやウクライナ危機など、社会のサステナビリティが脅かされる事案が相次いでいます。SDGsの達成年は2030年ですが、その根底が脅かされる状況に社会が変化してしまっています。

こうした中でもアンリツが貢献できる社会課題の解決に向け、2022年4月から私自身がサステナビリティ・環境総括役員を務めて推進する体制としました。経営理念で掲げる「誠と和と意欲」の下、サステナビリティ方針を実践し、社会にとって必要な会社、より良い未来を創るために役立つ会社として、安全・安心で豊かなグローバル社会の実現に貢献してまいります。

社会からの要請に誠実に取り組む

ESG課題への対応は、環境や社会への悪影響を最小限に抑え、全ての人が生き生きと働き、暮らせる社会につ

ながるものと捉えており、2021年に策定した中期経営計画GLP2023でサステナビリティ目標を掲げています。

ESG活動において最も注力しているのが気候変動対策です。アンリツは、再生可能エネルギー(再エネ)自家発電・自家消費に取り組む「Anritsu Climate Change Action PGRE 30」により、消費電力の削減に直接つながる活動を行っています。再エネ発電を増やす努力を企業の「自分ごと」として取り組み、引き続き推進します。PGRE 30は主要拠点で太陽光自家発電を行うものであり、2021年度の自家発電比率はGLP2023の目標である13%以上となる16.8%となりました。しかし、地球温暖化が深刻化していることを踏まえてさらに取り組みを強化し、2050年までにカーボンニュートラルを実現すべく、SBT認定のCO₂排出量削減目標を強化する計画を策定します。また、アンリツグループの年間電力消費量(約30GWh)はRE100の参加要件を満たす規模ではありませんが、カーボンニュートラル実現を推進している他の枠組みに参加いたします。

社会領域では人財の多様性、サプライチェーンにおける人権尊重などをサステナビリティ目標に掲げています。ダイバーシティ＆インクルージョン(D&I)の推進では、女性幹部職比率15%以上(グローバル)を達成したいと考えています。女性幹部職拡充の方策として、技術

系の女性を核とした新卒採用や中途採用の強化、柔軟に働ける制度の充実などに取り組んでいます。加えて、男性社員の意識改革や育児休職をためらうことなく取得できる風土づくりも重要であり、この点にも力を入れています。多様性はイノベーションを生み出し、会社の成長の原動力となるものです。将来的には、性別、国籍を問わずさまざまな価値観や考え方、経験をもった人材が意思決定の中核にいる会社になりたいと考えています。社員が安全で健康で生き生きと働き、個性と能力を発揮できる健康経営を推進してまいります。

サステナビリティ目標の達成は、役員賞与算定の指標としています。これは、サステナビリティへの取り組みを人事部門や環境部門など関連の強い部門だけに限定するのではなく、全ての役員がおののの所管する活動において責任をもって取り組んでいかなければならないという私の強い意志の表れです。

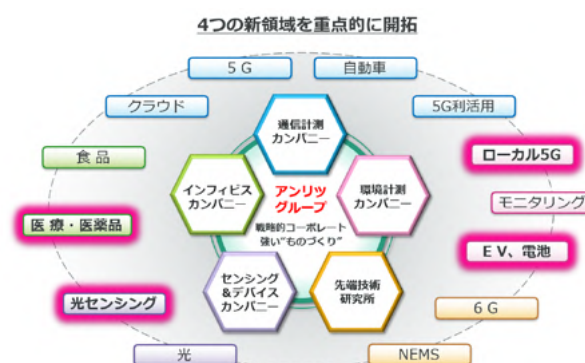
事業を通じて社会課題解決に貢献する領域を広げる

事業における取り組みの核となるものが、アンリツのコンピテンシーである「はかる」技術です。情報通信システムの進化は、常に社会革新を生み出し、豊かさ、発展をもたらしてきました。コロナ禍においても、人と人をつなぐ役割を担ったのは情報通信ネットワークでした。アンリツも緊急事態宣言中は最大8割の社員が在宅勤務を行った通り、テレワークは接触機会の減少に有効であり、感染拡大を防止するという面でも役立ちました。

アンリツの通信計測ソリューションは、スマートフォンや通信端末、データセンターなどの開発・製造・保守で接続品質を保証する役割を担い、情報通信システムの

進化・発展を支えています。また、「はかる」技術を食品生産分野にも展開しています。食品業界のお客さまに異物混入防止や原材料の過不足のない生産とその管理を自動化できるソリューションを提供し、食料資源の有効活用、安全・安心な食品の流通、食品ロスの低減に貢献しています。

情報通信システムの進化を支える、暮らしの安全と安心を守る。この取り組みは今後もアンリツのコアとなるものです。これに加え、新たな貢献領域を設定しました。それが、「ローカル5G」「EV、電池」「光センシング」「医療・医薬品」です。



なかでも「EV、電池」はアンリツにとって新たな事業領域であり、事業を通じて環境分野の社会課題解決に直接的に貢献できる初めての事業となります。この事業領域に参入するため、2022年1月に(株)高砂製作所のM&Aを行い、グループに加わってもらいました。同社は、より高性能でエネルギー効率の良いEVの研究開発をサポートする試験装置を提供しています。この事業を大きく成長させて、カーボンニュートラル社会の実現に大きな貢献をしたいと考えています。

社員全員で取り組むため、事業やESG対応にSDGsのゴールを組み込む

アンリツはグループ全体でSDGsのゴール9への貢献を掲げ、「持続可能な社会の建設に関わる産業の創造とイノベーションを促進していく」ことを目指しています。その上で、GLP2023において各事業部門、コーポレート部門、グループ会社がおののの視点で目指す未来社会を描き、その実現に向けてSDGsへの取り組みを組み込んだ計画を立てて取り組んでいます。それぞれの取り組みについては事業部門、コーポレート部門、グループ会社がメンバーであるサステナビリティ推進会議で進捗を確認し、実務的にPDCAを回しています。進捗に関しては経営戦略会議や取締役会で監督の下、サステナビリティ方針に沿って企業価値向上につながるようにしていきます。

日本政府が打ち出した「デジタル田園都市国家構想」は、行政手続きや教育、医療のオンライン化、自動車の自動運転などにより、地方にいても大都市と同じような働き方や生活を実現するものであり、いくつものSDGsにつながっています。この取り組みで欠かせないものが5G、クラウドコンピューティングから生み出されるデジタルトランスフォーメーション(DX)となっています。アンリツは、光/デジタル通信、モバイル通信の黎明期から、端末や装置が規格通りに動作し、つながるかを試験できる測定器や通信システムに組み込まれるデバイスを世界各国の通信事業者、メーカーなどに提供しています。5Gのさらなる技術革新やその先の6Gでも測定技術は必須であり、より良い未来社会づくりに大きな貢献ができる分野ですので、アンリツの事業活動にどうか、ご期待ください。

サステナビリティ経営が目指す未来

経営理念
経営ビジョン
経営方針

中期経営計画
(GLP2023)

財務目標

サステナビリティ目標

サステナビリティ
方針

WEB 中期経営計画 GLP2023

※1 PQA事業：プロダクツ・クオリティ・アシュアランス事業

※2 SCM：サプライチェーンマネジメント

事業を通じて解決する社会課題

アンリツグループの事業全体

安全・安心なインフラを整備し、持続可能な社会の建設につながる産業の創造とイノベーションの促進に貢献する



通信計測事業

- 強靱なネットワークインフラ整備



PQA事業※1

- 食品ロスの低減
- 品質保証



環境計測事業

- 強靱なインフラ構築
- 自然災害の防災／減災



センシング&デバイス事業

- 強靱なインフラ構築
- 健康的な生活の確保



社会の要請に応える課題 (ESG)

Environment

持続可能な消費と生産の企業活動で持続可能な社会づくりに貢献する

- 再エネ自家発電比率向上
- CO₂排出量(エネルギー消費量)／水使用量の削減
- 高品質で環境に配慮した製品の開発／製造
- 環境負荷を低減するSCM※2



Social

多様な人財とともに、個々人が成長し働きがいのある職場づくりに貢献する

- 人権と多様性の尊重
- 人材育成
- 労働安全衛生
- 人権に配慮したSCM



Governance

透明・公正かつ迅速・果断な意思決定とリスクマネジメントで誠実な企業活動を行う

- コーポレートガバナンス
- コンプライアンスの定着
- リスクマネジメントの推進



コミュニケーションの推進による共有価値の創造

全てのステークホルダーとともに協働して共有価値の創造に貢献する

- ステークホルダーへの情報提供とコミュニケーション



(通信計測事業)

- 通信用半導体メーカー
- 通信モジュールメーカー
- スマートフォンメーカー

- 無線基地局メーカー

- 通信事業者

- 自動車メーカー

- IoT端末メーカー

- 家電メーカー

- 航空宇宙関連

(ほか)

(PQA事業)

- 加工食品メーカー

- 医薬品メーカー

(ほか)

お客さま

(環境計測事業)

- 金融関連事業者

- 教育機関

- 自治体

- 通信事業者

- 自動車メーカー

(ほか)

(センシング&デバイス事業)

- 医療機器メーカー

- 通信事業者

- 通信部品メーカー

(ほか)

サステナビリティ経営が
目指す未来

安全・安心で豊かな グローバル社会の発展

アンリツは、お客さまとともに事業を通じて社会課題の解決に貢献します。そして、アンリツが重要と考える社会の要請に応える課題(ESG)に向き合い、ステークホルダーの皆さまとのコミュニケーションを重視し、グローバル社会のサステナビリティの発展に向けて取り組みます。

貢献領域

通信
インフラの
高度化

労働力不足
の解消

情報格差
是正

食品
ロスの
低減

自動車の
安全
高度化

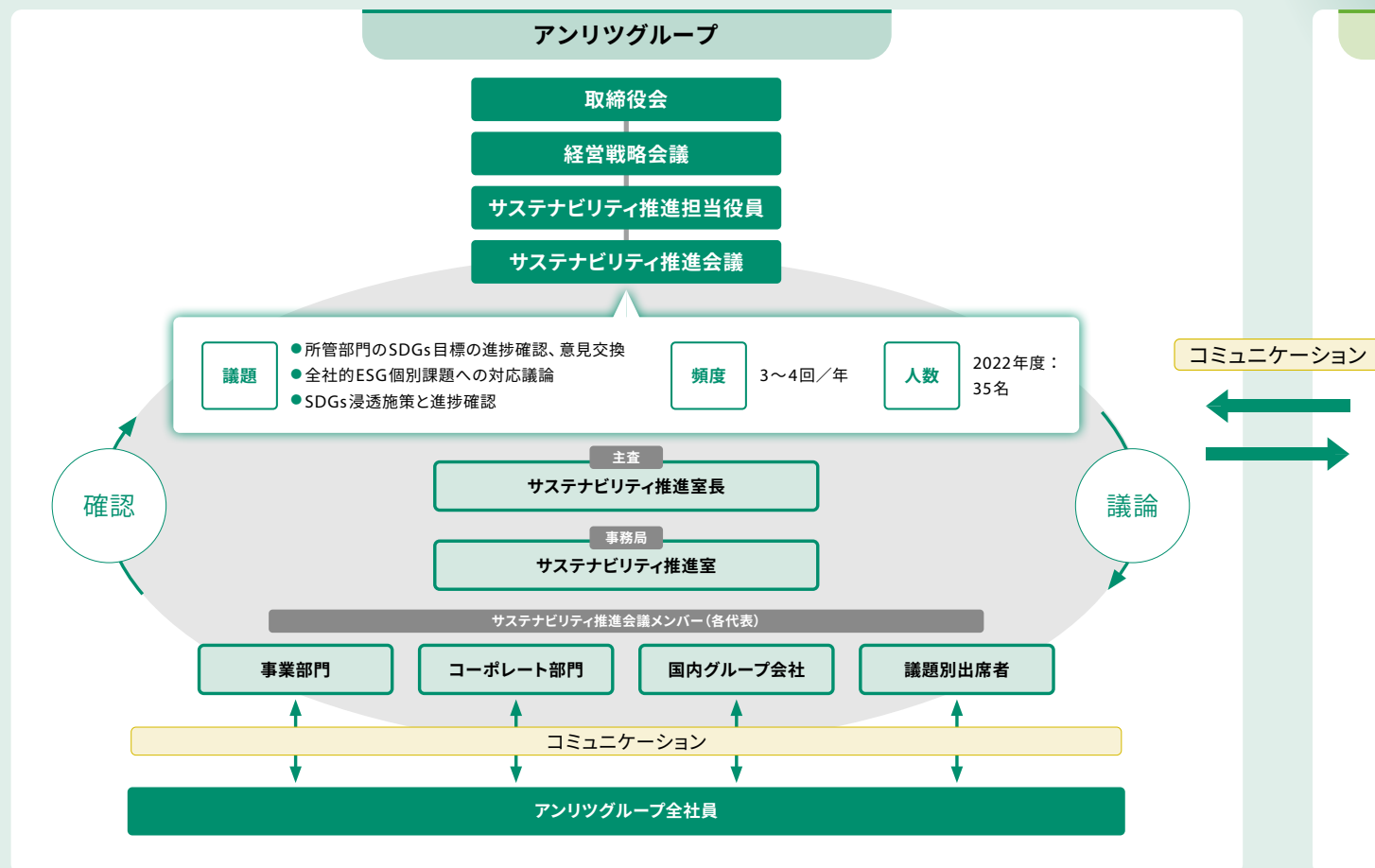
自然災害の
防災・減災

カーボン
ニュートラル
の実現

食の安全・
安心確保

サステナビリティ推進体制

アンリツは、経営理念、経営ビジョン、経営方針およびサステナビリティ方針に基づき、サステナビリティ活動を推進しています。主要な部門の代表者からなるサステナビリティ推進会議では、重点項目を明確にして情報を共有し、各代表者から各部門に展開・浸透させています。また執行役員・理事からなる経営戦略会議、取締役会においてもサステナビリティ課題を議論しています。なお、2021年度は、取締役会でのサステナビリティ課題に関する議論は8件でした。



ステークホルダー



株主・投資家さま



お客さま



取引先さま



社員



地域社会



政府・自治体



NGO・NPOなど



地球環境

サステナビリティ目標とその進捗

アンリツは、気候変動対策や人権の尊重、多様性の推進など、社会の持続可能性を阻害するさまざまな課題の解決に向けて、積極的に取り組んでいます。GLP2023では、ESG領域における3年間のサステナビリティ目標を策定し、取り組みを進めています。



	KPI：GLP2023の目標		2020年度実績	2021年度実績	進捗
Environment 環境	温室効果ガス [Scope1+2] (2015年度比)	23%削減	16.9%削減	17.7%削減	○
	温室効果ガス [Scope3] (2018年度比)	13%削減	10.1%削減	14.7%削減	◎
	自家発電比率 [PGRE 30] (2018年度電力消費量を基準)	13%以上	3.3% 2021年3月末時点	16.8% 2022年3月末時点	◎
Social 社会	女性の活躍推進 [女性幹部職比率 (グローバル)]	15%以上	10.8% 2021年3月末時点	10.9% 2022年3月末時点	○
	高齢者活躍推進	70歳までの雇用 及び 新処遇制度確立	65歳までの 雇用延長制度あり	70歳までの雇用 及び 新処遇制度制定	◎
	障がい者雇用促進 [職域開発による法定雇用率]	2.3%達成	2.05% 2021年3月末時点	2.54% [※] 2022年3月末時点 ※特例子会社、(株)ハビスマとの合算	◎
	サプライチェーン・デューデリジェンス [※] の強化	3年累積10社以上	0社	6社実施	◎
	CSR調達に係るサプライヤーへの情報発信と教育	情報発信 2回以上/年 教育 1回以上/年	情報発信 2回 教育 1回	情報発信 3回 教育 1回	◎
Governance ガバナンス	取締役の多様性推進 [社外取締役比率]	50%以上	44% (9人中4人)	50% (10人中5人)	◎
	海外子会社の内部統制構築	全海外子会社が 統制自己評価 (CSA) の基準を満たす	2023年度の評価に向けて、CSAの判断基準や各社に求められる水準を定義中 (2022年度完成予定)		○

※ デューデリジェンス：相手企業の経営環境や法的な問題点・リスクなどの調査・分析を行うこと。

バリューチェーンと事業を支える強み

安全・安心で豊かな社会づくりを支えるアンリツは、製品の企画・開発から廃棄に至るプロセスで、環境配慮や人権尊重などの社会の要請に応え、ステークホルダーと協働しながら価値を高めるバリューチェーンを構築しています。

Anritsu

アンリツの事業

通信計測事業

「5G/IoT社会の実現を支える通信計測ソリューション」の提供を通して

- 通信利活用による社会課題の解決
- 通信でつながる豊かな社会の実現

PQA事業

「食品や医薬品の安全・安心を支える品質保証ソリューション」の提供を通して

- 製造段階の食品ロスの低減
- 安全で安心して健康に暮らせる社会の実現

環境計測事業

「強靱な社会インフラを支え、産業デジタル化と脱炭素社会へ貢献する環境計測ソリューション」の提供を通して

- 社会インフラ／産業インフラの高度化促進
- カーボンニュートラル社会実現への貢献

センシング&デバイス事業

「安全・安心で快適な社会づくりを支える産業／医療用光センシング、通信デバイス」の提供を通して

- 医用機器の進化と人々の健康的な生活
- デジタル変革社会の実現

アンリツの強み

- 研究開発力
- 環境先進性

- 取引先さまとの信頼関係

- 高度な製造・調整・検査技術
- 柔軟な多品種少量生産体制

- 物流業者さまとの連携
- 製品包装設計の自社化

- お客さまとの信頼関係と実績
- グローバルな販売網
- リモート販促

- 熟練した保守エンジニア
- 充実した保守・サービス

- 廃製品のリサイクル機能を自社化し、サーキュラー・エコノミーを推進

企画・開発

資材調達

製造

出荷物流

販売
(お客さま)

保守

廃棄

社会の要請

- 先端技術への追従
- 環境配慮型製品
- 品質と製品安全

- 環境・人権に配慮した資材調達
- サプライチェーン人権リスクの低減

- 環境・人権に配慮した生産
- 品質と製品安全

- CO₂排出量の削減
- 廃棄物の削減

- 品質と製品安全
- 環境負荷低減
- 的確な情報提供

- アンリツ製品の安定稼働

- 資源循環(資源の有効活用)

アンリツの取り組み

- 関連団体への参画
- 協業の推進
- 省エネ、省資源、有害物質非含有設計
- 製品アセスメント

- CSR調達、グリーン調達
- 人権デューデリジェンスの実施
- 現代奴隷法対応
- 責任ある鉱物調達

- 生産革新
- 太陽光パネルの設置
- 安全な製造現場の維持

- 包装の簡素化、リユース化、素材変更
- モーダルシフト(トラック→鉄道)

- お客さま満足の向上
- 製品アセスメント
- 製品の省電力化
- Webサイトによる製品紹介、操作ガイド類の充実

- グローバルなサポート体制
- リモートサポート、メンテナンス

- 使用済み測定器を整備し再販
- 徹底した分別で高リサイクル率の維持

- 地球環境保護
- 人権と多様性の尊重
- 人財育成
- 労働安全衛生
- コーポレートガバナンス
- コンプライアンス
- リスクマネジメント

- ステークホルダーとのコミュニケーションの推進

研究開発と知的財産

「事業を通じて解決する社会課題」の取り組みでは、多様な人財による最先端技術を用いた研究開発と知的財産が原動力となっています。先進技術の獲得に努め、保有し活用することによって、“オリジナル&ハイレベル”な商品・ソリューションを開発し、グローバルに提供することで、お客さまとともに持続可能な社会の構築に貢献します。

戦略的な知的財産マネジメント

オリジナル&ハイレベルの源泉

アンリツグループの研究開発体制

主力の通信計測事業は、日本を中心に米州、EMEA[※]、アジア他に開発拠点をもち、各地域が保有する技術の有効活用でシナジーを生み出し、先進の製品開発に挑んでいます。



● 通信計測 ● 通信計測 ● 通信計測 ● 通信計測
● PQA ● その他

※ 欧州・中近東・アフリカ

経営戦略

事業戦略

多様な人財

国籍、性別、年齢、専門分野などさまざまな考え、価値観を持った多様な人財が連携し、オリジナル&ハイレベルな商品を創出しています。基盤技術や将来技術の研究開発を担う先端技術研究所では、さまざまな経験を持つ多くの中途採用人財も活躍しています。

先端技術研究所



通信計測事業
開発部門

PQA事業
開発部門

その他事業
開発部門

標準規格団体への参画

11 団体への参画
(2022年3月現在、通信計測事業)

WEB 参画団体

お客さま、他企業とのパートナーシップ

研究・開発

売上高に対する
研究開発費比率

10.8%
(2021年度)

WEB 研究開発費推移

獲得

保有

活用

アンリツグループの技術(抜粋)

モバイル
コミュニケーション
2G、3G、4G & 5G

- シグナリング技術
- 信号解析技術

オートモーティブ
IoTコネクティビティ

- 幅広い無線技術
- コミュニケーション解析技術

クラウド
コンピューティング
超高速シリアル
インターフェース

- 超高速デジタル信号技術
- 光解析技術

共通基盤技術

- FPGA設計技術
- ソフトウェア設計技術

X線異物検査

- 画像処理技術
- Deep Learning応用

質量検査

- 高速・高精度ダイナミック計量技術
- 計量安定化技術

社会インフラ監視、
防災

- 映像情報システム技術
- 分散型遠隔監視技術
- 高精度通信帯域制御技術

EV・電池制御

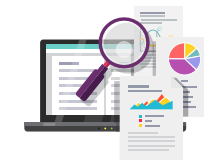
- エミュレーション電源技術
- 双方向電力制御技術
- 電力回生技術

半導体技術

- 発光デバイス設計・製造技術
- 超高速電子デバイス設計・製造技術

知的財産の活用

知的財産は、企業の持続的成長に重要な経営資源の一つであり、事業戦略と密接に関係しています。知的財産部門は、研究開発成果である知的財産の権利化と、それを補完する社外技術の獲得による知的財産ポートフォリオの充実を推進し、事業部門とともに事業戦略の実現を目指しています。



新製品・技術の公開

新製品情報、技術情報などはWebサイトを活用し広く展開しています。また、アンリツグループの技術論文集アンリツテクニカルや学会誌への寄稿論文などでも公開しています。

WEB アンリツテクニカル

通信計測事業

先進的な計測技術で最適な通信テストソリューションをいち早くお届けすることを使命に、安全・安心な通信インフラの構築に関わるお客さまをサポートし、持続可能な社会の建設につながる産業の創造とイノベーションの促進に貢献します。



5Gインフラの開発・製造・建設・保守をアンリツの測定器で評価・検査

社会課題・顧客ニーズ

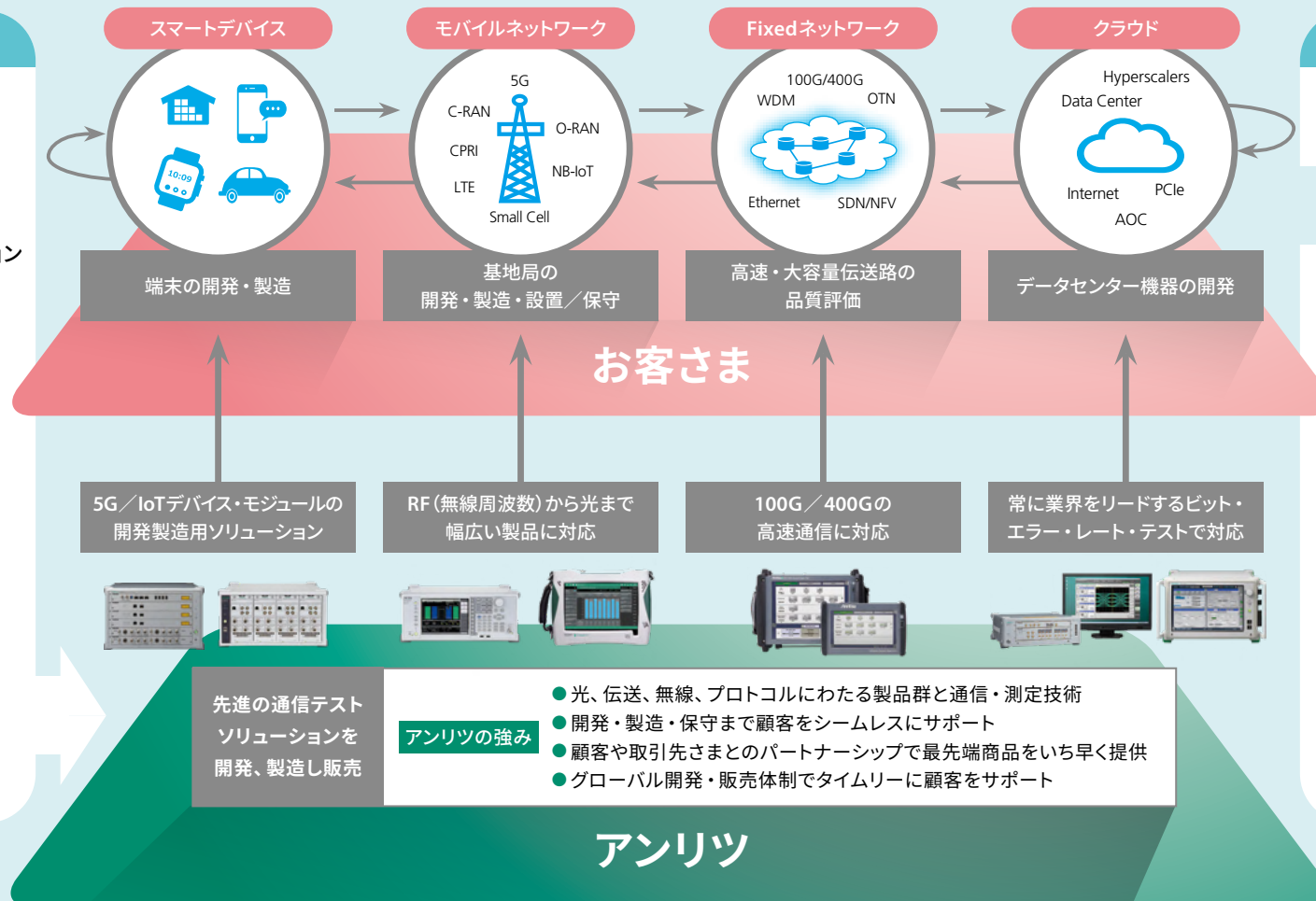
デジタル革新で
新たな社会の変革を期待

社会課題

- デジタルトランスフォーメーション
- 通信インフラの増強
- テレワーク環境整備
- 交通事故の減少
- 産業の効率化
- 地方格差の解消

顧客ニーズ、関心事

- 5G最新技術に迅速対応
- 6Gの開発
- グローバルサポート
- 優れた投資対効果
- 環境負荷低減など



未来社会

5Gの特長を生かした社会
課題解決ソリューションで、
豊かな未来を創造

5G

高速・大容量 多数同時接続
超低遅延



通信計測事業のSDGs

未来の社会では、DX（デジタルトランスフォーメーション）をはじめとする技術革新に支えられた産業と生活が期待されています。これらの技術革新は高度な通信ネットワークに支えられています。アンリツの通信計測事業は、その開発のサポートや品質を担保する信頼性の高い通信テストソリューションの提供を通じて、ゴール9「産業と技術革新の基盤をつくろう」とゴール11「住み続けられるまちづくりを」にお客さまとともに貢献しています。



会社見学の学生さんが
アンリツのエンジニアに
聞いてみた



技術革新によって未来のまちはどのようなとお考えですか？

未来のまちでは、DXによってさまざまな社会課題が解決され、より快適で豊かな生活が送れるようになっていくと思います。例えば、5Gの超低遅延特性を生かした自動運転や遠隔医療ですね。

未来のまちづくりでアンリツはどんな貢献をしていますか？

まちづくりの基盤となるのが、確実につながる高度な通信ネットワークです。その通信品質は、信頼性の高い通信テストソリューションによって検査されることで確保されています。アンリツは、スマホや基地局の開発・製造・保守に必要な通信品質を保証するテストソリューションを提供しています。これによって通信事業者さまは確かな通信ネットワークを構築し、交通の安全性改善も高めていきます。これらは、SDGsのターゲット9.1と11.2の達成に貢献しています。

テストソリューションの役割をもう少し具体的に教えてください。

端末や装置などは世界の通信ルール通りにつくられているか確認することが求められています。テストソリューションとなる測定器は目に見えない電波を可視化したり、基地局の代わりをして最新の通信ルール通りに動作するかを確認することができます。測定器で検証された正しい端末、装置が、右の図のような安全・安心で豊かな未来のまちを創り出していくのです。

なるほど。だから、アンリツはSDGsのゴール9と11に貢献しているんですね。

5Gがつくる「未来のまち」

